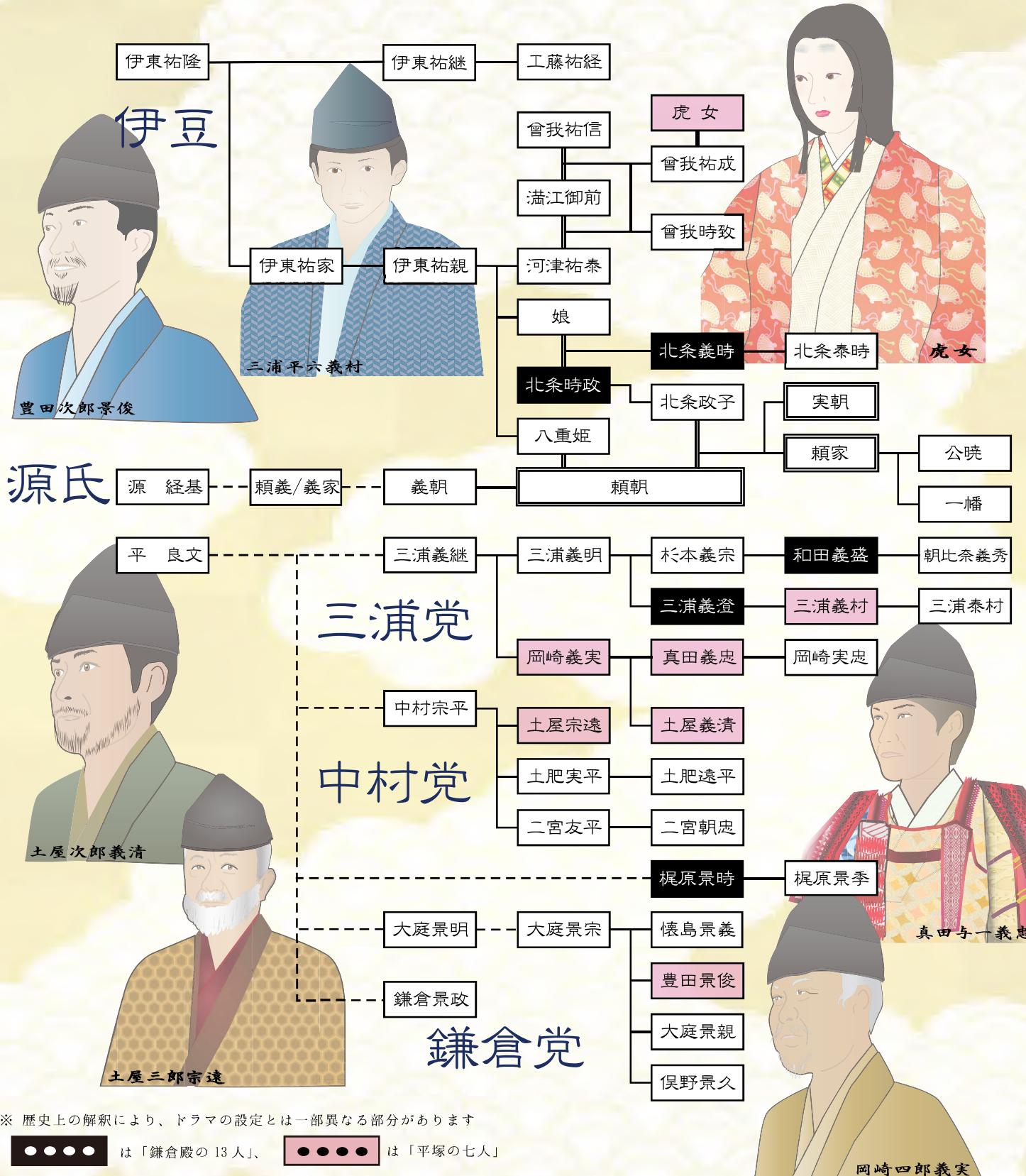


## 「鎌倉殿の13人」と「平塚の七人」 関係系図



Hiratsuka 7 People With The Shogun

# 鎌倉殿と 平塚の七人

真田与一義忠  
岡崎四郎義実  
土屋三郎宗遠  
豊田次郎景俊  
虎女  
三浦平六義村  
土屋次郎義清

ゆかりの地を巡る



NHKで放送中の大河ドラマ「鎌倉殿の13人」にちなみ、平塚市博物館のYouTube動画「鎌倉殿と平塚の七人」で、ゆかりの人物を紹介しています。

平塚の七人は、ドラマの『13人』には含まれないものの、賴朝の旗揚げや鎌倉幕府の創業に関わるなど重要な役割を担った人たちです。

このリーフレットを手に、七人にまつわる史跡を訪ね、地域の歴史ロマンに思いをはせてみてはいかがでしょうか。

## ① 真田与一義忠



三浦氏一族の岡崎義実の嫡男。治承4年（1180）、父義実らとともに石橋山の合戦に挑み保野景久を組み伏せましたが、脇差が抜けずに討ちとられてしまいます。与一の死を悼んだ頼朝はその後石橋山を通るたびに涙を流したそうです。

【史跡】天徳寺境内与一堂、真田城跡（平塚市真田1丁目14-1）

【交通】最寄りバス停「真田神社前」より徒歩5分

## ③ 土屋三郎宗遠

相模国南西部を地盤とする武士団「中村党」の一族。兄は土肥次郎実平、姉妹は岡崎四郎義実に嫁して与一義忠と次郎義清の兄弟を生みます。石橋山の合戦にも名を連ね、挙兵当初から頼朝を支えます。三代将軍源実朝が編さんした『金槐和歌集』の中で「相州の土屋といふ所に歳九十にあまれる朽法師あり」とされたのは、昔語りに実朝を訪ねてきた晩年の宗遠だったのかもしれません。



## ⑦ 土屋次郎義清

宗遠のあと土屋の家を継いだ次郎義清は岡崎義実の次男。武芸に秀で、建暦3年（1213）に起こった和田義盛の乱では、和田軍の主力メンバーとして奮戦します。苦戦を強いられる和田軍の中にあって、義盛の三男朝比奈義秀と共に北条義時軍の兵を蹴散らし、独り戦線を突破して御所を目指した義清でしたが、鶴岡八幡宮参道の赤橋付近で流れ矢にあたり落命します。

【史跡】土屋一族の墓（平塚市土屋1167付近）

【交通】最寄りバス停「神奈川大学」から徒歩13分

## ② 岡崎四郎義実



三浦義繼の四男。頼朝にとっての最初の戦い、伊豆の山木兼隆襲撃から参戦。石橋山の合戦では息子与一義忠を失います。北条時政親子と共に真鶴から船で海上に脱出し、翌日頼朝を安房国で迎えました。常に頼朝のそば近くで急拡大する御家人衆をまとめていたものと思われます。

【史跡】岡崎義実公墓（平塚市岡崎5732付近）

【交通】最寄りバス停「ふじみ野」から徒歩15分

## ④ 豊田次郎景俊



豊田景俊は、「鎌倉党」武士団の一族で、弟に平家方の総大将大庭景親があります。石橋山の合戦で兄の懷島景義と景俊は頼朝陣営に名を連ねます。『吾妻鏡』には兄弟の父大庭景宗の墓が、景俊の地元

豊田にあったことが記されており、それと伝わる塚が、現在「大庭塚」と呼ばれています。

【史跡】大庭塚（平塚市豊田本郷1669付近）

【交通】最寄りバス停「東橋」から徒歩5分

## ⑥ 三浦平六義村

三浦義村は頼朝旗揚げの際に三浦一族を率いた義澄の子。北条義時とは伊東祐親を祖父に持つて同士。頼朝から四代将軍藤原頼経の時代まで、三浦党の中心人物として創業期の鎌倉幕府を支えました。水上交通と陸上交通、物流の要所に三浦氏の田村館がありました。四代将軍頼経は、鎌倉下向の際にここに逗留しています。



【史跡】田村館跡の碑（平塚市田村7丁目20付近）

【交通】最寄りバス停「田村十字路」から徒歩5分

## ⑤ 虎女

『曾我物語』は曾我兄弟が源頼朝の側近工藤祐経を父の敵として討った事件を題材にした人気の物語。そこで、兄の十郎祐成の思い人として登場する大磯宿の遊女「虎女」は『吾妻鏡』にも記録される実在の人物です。兄弟の菩提を弔うため出家し住んだ庵や祐成との文を焼いた文塚など、虎女の数々の伝説が残り地域の歴史に花を添えています。



【史跡】虎女住庵跡（平塚市山下399 東光寺観音堂境内）

【交通】最寄りバス停「下万田」から徒歩3分

## ★ 鉄製舌長鎧

平塚市指定重要文化財

平塚市博物館の常設展示室にある「鎧」は、馬に乗るときに足を乗せる馬具です。足を乗せる部分が長く作られる「舌長鎧」と呼ばれるもので、全体の形状やデザインから鎌倉時代のものと推定されています。昭和15年（1940）頃、相模川鉄橋下流付近で砂利採取中に引き上げされました。



【展示場所】平塚市博物館（平塚市浅間町12-41）Tel:0463-33-5111

【交通】最寄りバス停「コンフォール平塚前」から徒歩3分